

宝塚市文化財団 寄贈作品展

開催のお知らせ

公益財団法人宝塚市文化財団（兵庫県宝塚市）は、このたび宝塚市立文化芸術センターにて、**2026年7月30日（木）～8月16日（日）**の会期で「**宝塚市文化財団 寄贈作品展**」を開催します。

本展覧会では、2025年度、株式会社メルコグループ代表取締役社長 牧寛之（まき・ひろゆき）氏より公益財団法人宝塚市文化財団に寄贈された山崎雅未（やまさき・まみ）の作品をお披露目します。

山崎雅未は宝塚市出身の画家で、宝塚市立文化芸術センターにて、公立の文化施設では初となる個展「山崎雅未 Mami Yamasaki | Anywhere」（2025年8月8日～9月15日）を開催し、好評を博しました。また同展覧会は株式会社メルコグループ様のご協賛・ご協力により開催が実現しました。

2025年の展覧会を契機として寄贈された宝塚ゆかりの2作品と、画家・山崎雅未の世界を、この機会にぜひご覧ください。



山崎雅未《Generative》2025年
宝塚市文化財団所蔵（牧 寛之 寄贈）

開催概要

事業名：宝塚市文化財団 寄贈作品展

会期：2026年7月30日（木）～8月16日（日）、16日間

休館日：毎週月曜日

開場時間：10時～18時

※宝塚市立文化芸術センターの開館時間に準じます

会場：宝塚市立文化芸術センター（たからば）

1階・サブギャラリー

◇ 兵庫県宝塚市武庫川町7番64号

◇ JR宝塚駅・阪急宝塚駅から徒歩約11分

◇ 阪急宝塚南口駅から徒歩約6分

観覧料：無料

主催：公益財団法人宝塚市文化財団



寄贈作品 作家プロフィール



山崎 雅未（Yamasaki Mami）

1987年大阪府生まれ、兵庫県宝塚市育ち。

多摩美術大学油画専攻卒業後、京都と東京を拠点に活動。

光を希望や記憶のメタファーとして再編した絵画を制作。人工知能が生成した都市の夜景などをもとに、幾層にも重ねた色彩は、情報や人々の夢、欲望が交錯する風景を表現している。

近年の主な展覧会に「Neon」（W&K-Palais Schönborn-Batthyány／ウィーン、2026年8月予定）、「NEO KYOTO — Imagining the City —」（京都文化博物館／京都、2026年）、「Anywhere」（宝塚市立文化芸術センター／兵庫、2025年）、「群馬県立近代美術館コレクション展」（群馬県立近代美術館／群馬、2024年）等。



山崎雅未

《Generative》

194.0 × 648.0cm、アクリル・キャンヴァス、4枚組、2025年制作

宝塚市立文化芸術センターにて開催した展覧会「山崎雅未 Mami Yamasaki | Anywhere」（2025年8月8日～9月15日）のために加筆・増補され完成した作品。

本作は4枚のキャンヴァスを連結した支持体の上にアクリル絵具で夜景を表現している。また、もとは中央の2枚が先に制作されていたところ、宝塚での展覧会に合わせて両端にそれぞれキャンヴァスを追加した。なお新しく追加した2枚のキャンヴァスについては、まず中央の2枚を人工知能に読み込ませて連続するイメージ（ラフ）を描くように指示し、その結果生成された画像をもとに制作されている。

画面に見られる何層にも重なるモチーフ、特にビル等の建築物や観覧車などはアクリル絵具を掻き取ることで表現される。この表現はまずキャンヴァスに多色のアクリル絵具を厚く塗り、その上から暗色を画面全体に塗り込めて覆い隠したうえでスクイージーを使用した掻き取りにより線や面を描画する方法である。この技法は近年の山崎の制作スタイルの主体となるもので、初期の水彩画法からオーストラリア・メルボルンでの路上制作を経てこの方法にたどり着いている。

この作品で描かれるのは「どこかであり、どこでもない」夜の都市景観である。画面後景には高層ビルが立ち並ぶ都会的な風景が、中景には観覧車やジェットコースターなどの遊園地の懐古的な風景が、そして前景には幅広の河川のような空間が描かれている。これらを統合した画中の景観は現実世界にそのままの姿で存在するものではないが、この非現実的な景観を構成する各々の風景は鑑賞者に淡い既視感を抱かせる。明確に所在が特定できる場所ではなくとも、記憶の海に漂う一片の思い出を掘り上げるような感覚を覚える風景は、まさしく「（かつて見たことがある）どこか」を表現している。

なお遊園地のモチーフについては山崎自身が「幼いころに行った宝塚ファミリーランドの景色が頭の中にあっただのかもしれない」と語っているが、山崎は現実世界のモチーフを幾層にも重ね上げたうえで、時にはあえて写実性を裏切る（たとえば高層ビルに対し、遊園地のモチーフは実際よりも小さく描かれる）ことで、夢幻のうちに広がる空間を顕現させている。

近年の山崎が取り組んでいるモチーフのひとつ「都市の夜景」。その構成要素である「光」は、絶え間なく飛び交う情報や絶えることのない人々の活動の軌跡から生み出されている。そしてその軌跡が示すものは望み描いた明日への希望であり、現実的な欲望であり、そこに生きた人々の記憶である。こうしたメタファーとしての「光」の集積によって、山崎は人々の意志と進みゆく時間によって彩られた風景を描き出している。

本作は山崎自身の記憶に今も眠る故郷・宝塚での幼少期の記憶や、現在の山崎が制作拠点とする東京、仕事で滞在したニューヨークなどの都会的風景が融合するもので、作家の過去と現在を繋ぎ留めた作品である。



山崎雅未

《Anywhere of Takarazuka》

152.4 × 812.8cm（各152.4 × 101.6cm）、水彩・紙、8枚組、2025年制作

宝塚市立文化芸術センターにて開催した展覧会「山崎雅未 Mami Yamasaki | Anywhere」（2025年8月8日～9月15日）のために、会期前の展覧会場内で制作した作品。

本作は水彩絵具を使用し、8枚の水彩紙それぞれに非連続の風景を表現した作品である。絵具は山崎が愛用するドイツ・シュミンケ社のホラダム透明水彩絵具、支持体にはマルマン株式会社のアルシュ水彩紙が使用される。近年、山崎はアクリル絵具を使用したスタイルを主体として制作を続けているが、その画業の初めには水彩による表現があり、現在でも水彩絵具による制作は並行して続けられている。

それぞれの水彩紙に描き出されるのは、展覧会名「Anywhere」になぞらえた「どこかであり、どこでもない、宝塚の風景」である。本作は展覧会「山崎雅未 Mami Yamasaki | Anywhere」の展示準備期間（2025年8月1日～）、実際に作品を展示する空間の前で制作された。また制作にあたり、山崎は故郷・宝塚の実家に滞在し阪急電鉄今津線の車窓から見える景色をランダムに写真で収め続けた。その中から特に心惹かれる風景を選び取り、山崎が得意とする水彩画の形で表現したのが本作である。本作ではこうした宝塚の風景とともに宝塚の市花であるスマレとダリアをモチーフとして取り上げ、それらを輪郭線を伴わない面的表現により描き出すことで、具象と抽象の狭間にある世界を描き上げている。なおホラダム透明水彩絵具は透明性と混色時の濁りのなさが特徴であり、どの画面においても絵具の特徴を最大限に活かした滲み出すような抒情性が描き出されている。

本作は山崎の原点でもある水彩絵具や水彩画への関心や技術、画家として帰郷した宝塚への思いが含まれた作品であり、「都市の夜景」を主要モチーフとするアクリル画とは異なる側面が示されるものである。

【問い合わせ先】

宝塚市立文化芸術センター（山口）
住所：〒665-0844 兵庫県宝塚市武庫川町7番64号
電話：0797-62-6800（開館日の10時～18時）
Mail：tac@takarazuka-c.jp

